

〈プロジェクト研究紹介〉

個を生かす学年・学級経営に関する研究

(第3年次)

学 校 経 営 部

1 今年度の研究内容

過去2年間にわたる研究から、「個を生かす学年・学級経営」の前提である「個のよさを見いだし、伸長する」手だての解明が課題となった。そこで、「個の特性」つまり「よさ」に焦点を当て、「よさを見い出す手だての工夫」及び「よさを生かし、伸長する支援の在り方」について研究協力校の実践を通して究明した。

また、昨年度作成した「個を生かす学年・学級経営アイディア集」を学級担任が活用しやすいように、1日の活動の流れに沿って「いつ、どこで、何を、どのようにすればよいのか」を「1日編」として具体的にまとめた。

(1) よさを見い出す手だての工夫について
内面的で見えにくい「よさ」を見い出す手だてを、「使用しやすい、効果がある、一般性がある」との3条件のもとに選定・開発を進めた。その主なものは次のとおりである。

- よさのレーダーグラフ
- いいこと見つけたカード
- 聞いてねカード

(2) よさを生かし、伸長する支援の在り方について

一人一人のよさが見い出され、学級の中でそのよさが生かされるようになるまでには、本人の努力や教師、級友の支援が必要である。この支援の在り方として、以下の内容が効果的であることが実証できた。

- よさを認める
- よさに気付かせる
- 自信を持たせる
- よさを一層伸長させる
- 学級全体で支援する
- 学級経営の中心に据える

学年・学級は児童生徒にとって生活・学習のすべての基盤である。主体性や社会性育成の場、個性伸長の場でもある。これらのことを基底とした研究「個のよさを見いだし、伸長する手だて、在り方」の成果は「一人一人の個性を生かす学年・学級経営」の充実策として有効であることが明らかになった。

2 次年度研究の方向

社会の要請にこたえる新しい学校づくりについての調査・研究を通して、その実態・課題を明らかにし、社会の変化に対応する学校経営の在り方を具体的にまとめる。

研究主題を「社会の変化に対応する学校経営の在り方に関する調査・研究」とする。